

## 【障害施設版】 秋田県福祉サービス第三者評価 評価結果票

評価実施基準日	平成 25 年 3 月 18 日
評価確定公表日	平成 25 年 3 月 31 日
評価情報更新日	平成 年 月 日

## ◆ 評価を実施した機関

名称	( 社会福祉法人 ) 秋田県社会福祉協議会
所在地	( 〒 010 - 0922 ) 秋田市旭北栄町1番5号
TEL	( 018 ) 864 - 2740
FAX	( 018 ) 864 - 2742
E-mail	hyoka@akitakenshakyo.or.jp
ホームページURL	http://www.akitakenshakyo.or.jp

## ◆ 評価を受審した事業者

法人名称	( 地方独立行政法人 ) アキタ ケンリツ イリョウ リョウイクキョウ 秋田県立医療療育機構
法人所在地	( 〒 010 - 1407 ) 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3-128
TEL	( 018 ) 826 - 2401
FAX	( 018 ) 826 - 2407
法人代表者	理事長 遠藤 博之
事業所名	アキタ ケンリツ イリョウ リョウイク 秋田県立医療療育センター
サービス種別	医療型障害児入所施設 ( 肢体不自由児・知的障害児通園施設 )
管理者名	澤石 由記夫
開設年月日	平成 22 年 4 月 1 日   定員数   100 名
TEL	( 018 ) 826 - 2401
FAX	( 018 ) 826 - 2407
E-mail	shibata-satoshi@airc.or.jp
ホームページURL	http://www.airc.or.jp/

## ◆ 評価の総評 ( 優れている点、改善を求められる点 )

## Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

秋田県の中核的療育機関として、障害を持つ子どもたちへの安全で良質な医療・療育の提供と、乳幼児期から学齢期、成人期に至るまでのライフステージに応じた適切な支援を行うことを基本理念に掲げ、5つの具体的な方針に基づいて理念の実現に努めている。

全国初の福祉事業型の地方独立行政法人で、5年間の中期計画を基に質の高い療育の提供や効果的な運営体制の構築をめざし、ワーキンググループを組織して各年度の事業計画に反映させている。

医療型施設のため、医師である管理者のリーダーシップのもと、看護職を中心に医療的視点での業務改善や取り組みを行っているが、「福祉施設」の視点での職員や利用者 ( 保護者 ) への取り組みや関わりが十分ではないため、組織全体での仕組み・取り組みの共有を図ることが望まれる。

## Ⅱ 組織の運営管理

組織の再編統合や措置から契約へと経営環境が変わることに伴い、中期計画に5年間の収支・資金計画等を示しており、利用者数の変化などは運営会議で検討・把握している。

中期・事業計画に療育従事者の確保や職員の能力向上などの考え方を明示し、看護職を中心とした計画、実施、評価、見直しの仕組みに基づき職員一人ひとりの研鑽に努めているため、組織全体の仕組みとして確立させるとともに、明確な人事考課基準を策定するなど適切な人材確保・育成に向けて取り組んでほしい。

医療型施設のため、マニュアルに沿った利用者の感染症予防対策や安全管理に向けた組織内の体制が充実しており、防災対策も消火設備や非常食等の備蓄など整備している。

医療機関を併設し、かつ新興住宅地に移転したばかりで町内会を含めた地域との関わりが希薄であるため、今後は福祉施設としての機能を充実させ、利用者の生活を支えていく「地域」として、障害への理解と互いの有する機能や力を有効に活用し、災害時等における近隣住民の協力体制につなげるなど、交流と連携の確保に努めてほしい。

## Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

センター内に「提言・要望・苦情等受付箱」を設置し、苦情等には必要に応じて第三者委員の意見を基に対応する体制があり、保護者会を通じて保護者の意向等を把握している。

また、療育サービスの自己点検を自主的に行い、看護職を中心に各種手順書に基づいた療育方法を業務委員会で見直しているが、自己点検結果の分析・検討など施設全体で見直す仕組みはないため、プライバシー保護の観点を踏まえて検討してほしい。

療育は個別支援計画やポータル早期教育プログラムに基づいているが、看護やリハビリ、保育など多職種が参画したものではなく、「医療」と「福祉」の機能を併せ持つ施設として今後の連携が重要であるため、医療が必要な場合は別として、それ以外は生活の場としてライフステージに応じた生活と訓練の支援を強化することが医療型の福祉施設に求められる。

## A 利用者の尊重、日常生活支援

肢体不自由乳幼児・知的障害乳幼児の看護、生活、訓練の場として、子どもと保護者一人ひとりを尊重した療育を行っており、ポータル早期教育プログラムに基づいて、子どもの発達段階に応じて支援している。

母子通園施設のため、基本的には子どもと保護者を一体的に支援しているが、毎月のチャレンジデーで母子分離を行い、母親のリフレッシュとともに食事や排せつ、遊びなどの場面で子どもの主体性を引き出す工夫をしている。

また、医療管理の下で子どもの健康状態を把握し、3重のチェック体制による誤薬防止など適切かつ迅速な24時間対応の医療体制を確保している。

今後は、一人ひとり異なる障害を持つ子どもたちの将来を見据え、通園施設であっても子どもの主体的な自立に向けてどのように支援していくか、福祉施設の視点で日常生活支援の仕組みを考えることが望まれる。

## ※ その他、特記事項

「秋田県小児療育センター」と「秋田県大平療育園」を再編統合した「秋田県立医療療育センター」の中にあり、医療機関や「発達障害者支援センターふきのとう」などが併設され、総合病院や大学、高齢者・障害者施設、交流施設など社会資源が豊富な新興住宅地にある。

## ◆ 細目の評価結果（基本評価53項目）

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
<b>I 福祉サービスの基本方針と組織</b>			
1 理念・基本方針			
(1) 理念、基本方針が確立されている。			
①理念が明文化されている。	a	子どもたちへの安全で良質な医療・療育の提供と、乳幼児期から学齢期、成人期に至るまでのライフステージに応じた適切な支援を行うことを医療療育センターの基本理念に掲げている。	今後も、より一層の努力を行います。
②理念に基づく基本方針が明文化されている。	a	基本理念の中に、子どもの発達に係る幅広い支援や一人ひとりに応じたきめ細かな療育提供、保健・医療・福祉・教育と連携した療育支援など、具体的な5つの方針を掲げている。	今後も、より一層の努力を行います。
(2) 理念や基本方針が周知されている。			
①理念や基本方針が職員に周知されている。	b	理念や方針を明示した「業務概要」を全職員に配布し、スタッフルームへの掲示などで周知しているが、組織全体での周知としては不十分であるため、全職員に周知できる仕組みづくりが望まれる。	組織全体で周知されるような仕組みを作ります。
②理念や基本方針が利用者等に周知されている。	b	理念や方針をパンフレット、ホームページ、業務概要などに明示しているが、理解を促すための取り組みは不十分であるため、保護者会の機会を活用するなど積極的な周知や理解を促すための工夫が望まれる。	利用者に周知されるような仕組みを作ります。
2 事業計画の策定			
(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
①中・長期計画が策定されている。	a	独立行政法人として平成22年度から5年間の中期計画を策定し、療育サービスの提供や従事者の確保をはじめ、収支・資金計画など具体的な運営等に関する計画となっている。	今後も、より一層の努力を行います。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
②中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	a	<p>中期計画の内容に沿った各年度の事業計画を策定しており、部門毎の事業概要にも反映させている。</p> <p>なお、今後は5年間の段階的な目標や数値を設定し、利用者確保のための具体的な対策を計画に盛り込むことが望まれる。</p>	利用者確保のための具体的な対策を検討します。
(2) 事業計画が適切に策定されている。			
①事業計画の策定が組織的に行われている。	a	各部署から選任された委員によるワーキンググループを設置し、その中で中期計画の内容に沿った各年度の事業計画を検討・策定している。	今後も、より一層の努力を行います。
②事業計画が職員に周知されている。	b	職員が電子媒体で確認できるネットワークシステムを取り入れているが、職員個人のため、組織全体で周知・徹底する仕組みづくりが望まれる。	事業計画が全職員に周知されるような仕組みを作ります。
③事業計画が利用者等に周知されている。	c	ホームページで確認できるようにしているが、保護者には事業計画を配布・説明していないため、保護者会を通じて福祉施設としての事業計画を理解してもらうなど、わかりやすい内容や説明の工夫が求められる。	事業計画が利用者に理解してもらえる様に、文書を配布し説明するなどの対応を進めます。
3 管理者の責任とリーダーシップ			
(1) 管理者の責任が明確にされている。			
①管理者自らの役割と責任が職員に対して表明されている。	b	センター長の下に部長（施設長）がおり、通園部の総括責任者としての役割を認識しているが、職員の理解を促すには至っていないため、今後は事業全体の中で積極的に施設長としての役割と責任を周知するとともに、組織図と実際の責任体制を明確に示すことが求められる。	施設長の役割と責任を明確にし、職員に周知します。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
②遵守すべき法令等を正しく理解するための取組が行われている。	b	情報公開や個人情報保護、防災や児童虐待防止に関する規程があるほか、医療に関する各種制度や法令等の変更には適宜対応しているが、職員の理解を深めるには至っていないため、その他の法令等を含めた理解促進のための取り組みが望まれる。	遵守すべき法令等を職員が十分理解する様に取り組みます。
(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
①質の向上に意欲を持ちその取組に指導力が発揮されている。	b	管理者は医師として、毎月のケースカンファレンスに参加するなど医療を通じたリーダーシップを発揮しているが、福祉施設としての質の向上については不十分であると認識していることから、今後は福祉サービス全体の質の向上にも取り組むことが望まれる。	福祉サービス全体の質の向上に関しても、施設長がより積極的に取り組みます。
②経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力が発揮されている。	b	尿検査の効果的な実施など医療的視点での業務改善などに指導力を発揮しているが、乳幼児通園施設の視点では不十分であると認識していることから、今後は施設全体の効率化に向けた取り組みが望まれる。	施設全体の効率化に向けて取り組みます。
<b>II 組織の運営管理</b>			
1 経営状況の把握			
(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
①事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	b	措置から契約へと移行し経営環境が変わるなか、運営会議で利用者数の変化を把握して収支計画に反映させているが、地域の利用者の推移やニーズ等の状況把握は十分でないため、的確に把握するための取り組みが望まれる。	利用者の推移やニーズを把握するように取り組みます。
②経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取組が行われている。	b	毎月の運営会議で利用状況等について話し合っているが、職員に伝達する仕組みがないため、会議の結果を施設全体で共有するなどの取り組みが望まれる。	運営会議の結果を施設全体で共有するようにします。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
③外部監査が実施されている。	c	外部監査は実施していないため、今後の実施について検討し、中期計画に盛り込むなど積極的な取り組みを期待したい。	外部監査施行に向けて検討します。
<b>2 人材の確保・養成</b>			
<b>(1) 人事管理の体制が整備されている。</b>			
①必要な人材に関する具体的なプランが確立されている。	b	中期計画に療育従事者や事務職員の確保と育成に関する基本的な考え方が明示されているが、平成24年度の職員採用計画は退職者の補充に留まっているため、職種や方策などの具体的なプランを検討し、中期計画に盛り込むことが望まれる。	事業計画を遂行するうえで、必要な人材を明らかにし、確保できるように、人事を担当する経営本部と話し合うようにします。
②人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	c	必要に応じて職員へのヒアリングを行っているが、人事考課の明確な基準がないため、今後の取り組みを期待したい。	人事を担当する経営本部と話し合うようにします。
<b>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</b>			
①職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	a	年1回の異動調書とヒアリングなどで職員の意向を把握しており、夏季休暇や有給休暇の消化に関しても状況を把握し、改善につなげる仕組みがある。	今後も、より一層の努力を行います。
②職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	a	職員互助会があるほか、人間ドックや予防注射、メンタル面の相談窓口として産業医を配置するなど、職員の健康管理にも配慮している。	今後も、より一層の努力を行います。
<b>(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</b>			
①職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a	中期計画及び事業計画に職員の能力向上や療育従事者育成に関する基本姿勢があり、各種研修等への参加や人事交流など具体的に明示している。	今後も、より一層の努力を行います。
②個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b	看護職の継続教育計画に基づき、レベル別の研修内容や個人の研修カードを整備し、計画に基づき実施しているが、他職種の研修計画がないため、施設全体の研修計画とともに職員一人ひとりの計画策定が望まれる。	保育部門でも個々人の研修計画を作成します。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
③定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	b	看護職ではチャレンジシートで評価、見直しを行い次の計画に反映させているが、他職種では復命報告はあるものの評価、見直しには至っていないため、施設全体の仕組みとして確立し、次期計画に盛り込むなど今後の取り組みを期待したい。	保育部門でも個々人の研修計画を作成し、定期的に評価・見直しをします。
(4) 実習生の受入れが適切に行われている。			
①実習生の受入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取組が行われている。	a	中期計画に教育研修体制の考え方を明示し、看護・介護・歯科医療系の実習生受け入れマニュアルに基づき、実習指導者の配置や実習計画に沿って取り組んでいる。	今後も、より一層の努力を行います。
3 安全管理			
(1) 利用者の安全を確保するための取組が行われている。			
①緊急時（事故、感染症の発生時など）における利用者の安全確保のための体制が整備されている。	a	院内感染予防対策マニュアルや安全管理マニュアルに基づき、事故・感染症の予防策や発生時の対応など安全管理の考え方を明確にしている。 また、各部門にリスクマネジャーを置き、緊急時の事故対策連絡網により、事故等発生時には迅速に対応できる体制を整備している。	今後も、より一層の努力を行います。
②災害時に対する利用者の安全確保のための取組が行われている。	b	消火設備が充実しており、食料等の備蓄など防災対策マニュアルに基づいて震災発生時の対応体制を整備している。 なお、災害発生時に近隣住民の協力を得られるよう地域力を活用した利用者の安全確保の取り組みを期待したい。	災害時に近隣住民の協力を得られるように、当センター全体の防災プランの中で検討を進めます。
③利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策が実行されている。	a	センター内に医療安全管理委員会を設置し、インシデント・アクシデントレポートにより利用者の安全を脅かす事例の要因分析と対応策を検討しており、各部門のリスクマネジャーを通じて改善につなげるとともに家族にも説明している。	今後も、より一層の努力を行います。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
<b>4 地域との交流と連携</b>			
<b>(1) 地域との関係が適切に確保されている。</b>			
①利用者との関わりを大切にしている。	c	隣接する「きらり支援学校」の夏祭りで地域との交流を図っているほか、乳幼児通園事業として全県下で障害別、程度別に訓練と交流を行っているが、通園施設であっても地域に出向き、障害に関する地域住民の理解と災害時の協力を得るため、できる限り地域と関われる機会をつくるよう積極的な働きかけを期待したい。	地域住民との交流の機会を作るように検討します。
②施設が有する機能が地域に還元されている。	c	中期計画に基づき、別部門の発達障害者支援センター等では地域への貢献活動を行っているが、施設としては実施していないため、組織全体で連携しながら多様な専門知識と技術を地域貢献に生かしてほしい。	他部門とも協議し、地域貢献の具体案を検討します。
③ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし体制が確立されている。	a	ボランティア活動受入要領に目的や登録手続きを明示しており、子どもの遊び・話し相手として大学生の支援ボランティアを定期的に受け入れ、実施記録も整備している。	今後も、より一層の努力を行います。
<b>(2) 関係機関との連携が確保されている。</b>			
①必要な社会資源が明確にされている。	b	緊急時の関係連絡先をリスト化しスタッフルームに掲示しているが、利用者を支援するうえで必要な関係機関や団体等もリスト化し、職員間で情報の共有化を図ることが望まれる。	関連機関や団体等のリストを充実させ、その情報を職員間で共有できるようにします。
②関係機関等との連携が適切に行われている。	a	今年度から相談支援事業所との定期的検討会を実施しているほか、保護者の希望により子どもが通っている保育園や幼稚園を訪問して生活状況の改善に努めるなど、施設の役割・機能を高めるために取り組んでいる。	今後も、より一層の努力を行います。
<b>(3) 地域の福祉向上のための取組が行われている。</b>			
①地域の福祉ニーズが把握されている。	c	別部門には総合相談機能がありニーズの把握が可能だが、施設としては行っていないため、組織内や関係機関とも連携しながら地域の福祉ニーズ発掘に努めてほしい。	地域の福祉ニーズを把握できるように、関係機関とも連携しながら、具体的対応を進めます。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
②地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	c	利用している保護者だけでなく、既存のサービス以外のニーズ発掘に努め、今後はニーズに基づいた独自の事業・活動を中期計画に盛り込むことが望まれる。	地域のニーズを把握した上で独自の事業・活動を立案します。
<b>Ⅲ 適切な福祉サービスの実施</b>			
1 利用者本位の福祉サービス			
(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
①利用者を尊重したサービス提供について共通の理解を持つための取組が行われている。	a	利用者・家族のライフステージに応じて適切に支援することを理念や中期計画に掲げ、母子通園という特性を生かし、保護者に対する虐待防止の勉強会を実施するなど、子どもへの良質な療育につなげるため保護者とともに支援している。	今後も、より一層の努力を行います。
②利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等が整備されている。	b	介護・看護の各種手順に利用者のプライバシーに配慮する記載があるが、組織としてのプライバシー保護に関する規程やマニュアルがないため、早急な整備とともに職員全体に周知することが望まれる。	プライバシー保護に関するマニュアルを作成し、職員に周知します。
(2) 利用者満足の上昇に努めている。			
①利用者満足の上昇を意図した仕組みを整備し、取組が行われている。	b	保護者会を通じて各行事などの意向等を把握しているが、それを踏まえた次のステップへの取り組みが十分ではないため、今後は行事だけでなく施設全体の満足度についても把握し、満足度向上につなげてほしい。	行事に限らず、施設の全サービスについて、利用者の満足度を把握した上で、より高い満足度を目指した取り組みができるようにします。
(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
①利用者が相談や意見を述べやすい環境が整備されている。	a	センター内5か所に「提言・要望・苦情等受付箱」を設置し、提言・要望・苦情等申出書により意見できるほか、重要事項説明書に苦情受付担当者や外部の相談機関なども明示して相談対応体制を整備している。	今後も、より一層の努力を行います。



項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
②苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能されている。	b	<p>提言・要望・苦情等解決実施要領に苦情等の受付から解決等に係る手順を定め、第三者委員からなる運営適正化委員会の意見を踏まえて解決、報告、公表する仕組みがある。</p> <p>また、利用契約書や重要事項説明書にも苦情相談体制について明示しているが、第三者委員などへの相談方法等が十分周知されていないため、センター内に掲示するなどの取り組みが望まれる。</p>	現在あるマニュアルをさらに整備し、その内容を利用者に周知するように、施設内に掲示するなどします。
③利用者からの意見等に対して迅速な対応が行われている。	a	<p>苦情等意見があった場合は、提言・要望・苦情等解決実施要領に基づき迅速に対応し、その結果をセンター内に掲示している。</p> <p>なお、今後は「提言・要望・苦情等受付箱」の開封頻度を多くするとともに、第三者委員へ定期的に結果を報告することが望まれる。</p>	今後も、より一層の努力を行います。
<b>2 サービスの質の確保</b>			
<b>(1) 質の向上に向けた取組が組織的に行われている。</b>			
①サービス内容について定期的に評価を行う体制が整備されている。	b	療育サービスの自己点検を自主的に実施しており、その延長で今回の第三者評価受審につながっているが、自己点検の結果分析、検討が十分ではないため、組織内での仕組みづくりが望まれる。	自己点検結果を分析・検討する仕組みを作ります。
②評価の結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施されている。	b	療育サービスの自己点検により改善すべき課題を明確にしているが、改善に向けた分析・検討などの取り組みが十分でないため、今回の第三者評価受審を契機とし、課題の改善に向けて計画的に取り組むことが望まれる。	自己点検結果を分析・検討し改善計画を作成します。
<b>(2) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立されている。</b>			
①提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	b	各種手順書にサービスの実施方法を文書化し、発達支援のポータープログラムに基づいて実施しているが、利用者の尊重や生活支援という視点が十分でないため、子どもや保護者の視点に立った手順書の見直しが望まれる。	既存の療育プログラム（手技）を提示するだけでなく、利用者の生活支援との立場から、より包括的な内容の標準的実地方法を文章化し実践するようにします。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
②標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立されている。	b	日々の業務から定期的に療育方法を見直す仕組みがあるが、各種手順の見直しに関する検討記録がないため、他職種を含め施設全体で定期的に見直し、福祉サービス実施方法の標準化と高度化につなげてほしい。	標準的実地方法を定期的に見直し検討し、その内容を記録することにより、サービス内容の改善と高度化に繋げるようにします。
(3) サービス実施の記録が適切に行われている。			
①利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	a	利用者一人ひとりの個別支援計画に基づいた療育支援内容を記録しており、一覧で確認できるよう工夫している。	今後も、より一層の努力を行います。
②利用者に関する記録の管理体制が確立されている。	a	文書取扱規程に基づき文書や記録、データ等の保存・廃棄など適切に管理している。 また、個人情報保護規程や診療情報提供規程で情報開示に関する取扱いを定め、開示請求があれば規程に沿って開示している。	今後も、より一層の努力を行います。
③利用者の状況等に関する情報が職員間で共有化されている。	a	電子カルテなど情報ネットワークシステムを導入しており、全職員のIDを設定して必要に応じて情報共有できる仕組みがある。	今後も、より一層の努力を行います。
3 サービスの開始・継続			
(1) サービス提供の開始が適切に行われている。			
①利用希望者に対してサービス選択に必要な情報が提供されている。	a	医療療育センターのホームページや福祉事務所等へのパンフレット配置などで情報提供しているほか、利用希望者には見学や母子一日体験などで必要な情報提供に努めている。 なお、全県下の施設であるため、今後は市町村へのパンフレット配置など積極的な情報発信を期待したい。	今後も、より一層の努力を行います。
②サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	a	「入園のしおり」や重要事項説明書に基づいて施設利用に関する説明を行い、同意を得たうえで保護者と契約している。	今後も、より一層の努力を行います。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	評価結果に対する事業者からの意見
(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。			
①施設の変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応が行われている。	a	施設・病院への変更の際は、個別の支援（指導）に関する記録シートに保護者の同意を得て支援状況等を記載し、退所後の療育等の継続に配慮した対応を行っている。	今後も、より一層の努力を行います。
4 サービス実施計画の策定			
(1) 利用者のアセスメントが行われている。			
①定められた手順に従ってアセスメントが行われている。	a	面接などで個別支援計画書に沿って子どもの心身と生活状態を把握し、保護者の意向を把握しながら適正にアセスメントしている。 また、ポーターズ早期教育プログラムのチェックリストで発達状態を把握している。	今後も、より一層の努力を行います。
(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。			
①サービス実施計画が適切に策定されている。	b	一人の利用者に対して看護、リハビリ、保育・育成など多様な機能が混在しており、個別支援計画策定にすべてが参画しているわけではないため、各専門性の連携により具体的な計画策定の仕組みを構築してほしい。	個別支援計画策定に当たっては、各部門が参画し、それぞれの専門性が発揮されるようにします。
②定期的にサービス実施計画の評価・見直しが行われている。	b	今年度から個別支援計画を導入し、年2回のモニタリングを実施しているが、利用者本位の視点で各部門の専門性を生かしながら策定、評価、見直しに取り組むことを期待したい。	個別支援計画の評価・見直しも、各部門がそれぞれの専門性を生かして取り組みます。

## ◆ 細目の評価結果（内容評価26項目）

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	特記事項
1 利用者の尊重			
(1) 利用者の尊重			
①コミュニケーション手段を確保するための支援や工夫がなされている。	a	言葉の理解が困難で様々な障害をもつ子どもたちとの個別のコミュニケーション手段として、文字や絵カードなど非言語的な方法で意思伝達できるよう工夫している。	今後も、より一層の努力を行います。
②利用者の主体的な活動を尊重している。	a	子どもと保護者との主体的活動として、クリスマス会や保護者による出し物など保護者会が中心となり企画・立案し、職員とともにやっている。 実施後は活動の評価も行い次回に生かしているほか、親からの自立の体験を積み重ねる活動も実施している。	今後も、より一層の努力を行います。
③利用者の自力で行う日常生活上の行為に対する見守りと支援の体制が整備されている。	a	チャレンジデーという母子分離の食事や自由遊びの時間などの日常生活において、職員は保護者と子どもの関わりを見守りながら必要に応じて支援している。 また、チャレンジデーとして母子分離を行い、子どもの自立と母親のリフレッシュを図っている。	今後も、より一層の努力を行います。
④利用者のエンパワメントの理念にもとづくプログラムがある。	a	ポータージ早期教育プログラムの評価結果に基づき、子ども一人ひとりの段階ごとに訓練を実施しているほか、活動プログラムを作成し実践している。 今後、さらに子ども一人ひとりの力を引き出せる機会づくりに向けて積極的に取り組んでほしい。	今後も、より一層の努力を行います。
2 日常生活支援			
(1) 食事			
①サービス実施計画に基づいた食事サービスが用意されている。	a	チェックリストでカロリーコントロールの有無や介助方法などを把握し、個別支援計画に基づき、子どもの心身状況に合わせて食事を支援している。	今後も、より一層の努力を行います。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	特記事項
②食事は利用者の嗜好を考慮した献立を基本として美味しく、楽しく食べられるように工夫されている。	a	保護者会での意見を献立に反映できるよう支援しているほか、食事の温度や子供向きのお盆など配慮があり、楽しく食べられるよう工夫している。 また、食事は保護者が介助しているため家庭的な雰囲気があり、職員や栄養士は声かけ、見守りながら側面的に支援している。	今後も、より一層の努力を行います。
③喫食環境（食事時間を含む）に配慮している。	a	通園施設のため昼食だけになるが、保護者が介助しながらゆったりと食事できる環境づくりに配慮している。	今後も、より一層の努力を行います。
(2) 入浴			
①入浴は、利用者の障害程度や介助方法など個人的事項に配慮している。	—	通園施設のため該当なし。	
②入浴は、利用者の希望に沿って行われている。	—	通園施設のため該当なし。	
③浴室・脱衣場等の環境は適切である。	—	通園施設のため該当なし。	
(3) 排泄			
①排泄介助は快適に行われている。	a	通園時間内の排泄介助は基本的に保護者が行っているが、毎月行われるチャレンジデーでは保護者に代わって職員が介助している。 また、ポーター早期教育プログラムに基づき、幼児の発達支援段階に応じて排泄を支援している。	今後も、より一層の努力を行います。
②トイレは清潔で快適である。	a	トイレ内は清潔で掃除が行き届いており、子どもの成長段階に応じた排泄器具や、身長に応じて高さの異なる洗面所を使用できるなど排泄環境に配慮している。	今後も、より一層の努力を行います。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	特記事項
<b>(4) 衣服</b>			
①利用者の個性や好みを尊重し、衣服の選択について支援している。	a	通園施設のため、保護者の好みを尊重している。	今後も、より一層の努力を行います。
②衣類の着替え時の支援や汚れに気づいた時の対応は適切である。	a	母子通園施設のため、着替えは基本的に保護者が行っているが、チャレンジデーで保護者が不在の場合は、汚れた際に保護者や施設で用意した衣類などで職員が支援している。	今後も、より一層の努力を行います。
<b>(5) 理容・美容</b>			
①利用者の個性や好みを尊重し、選択について支援している。	a	通園施設のため、保護者の好みを尊重している。	今後も、より一層の努力を行います。
②理髪店や美容院の利用について配慮している。	a	通園施設のため、保護者が対応している。	今後も、より一層の努力を行います。
<b>(6) 睡眠</b>			
①安眠できるように配慮している。	—	通園施設のため該当なし。	
<b>(7) 健康管理</b>			
①日常の健康管理は適切である。	a	医療型通園施設のため、通園時に看護師が子どもの健康状態を把握し、電子カルテを職員間で共有している。	今後も、より一層の努力を行います。
②必要な時、迅速かつ適切な医療が受けられる。	a	センター内に小児科、整形外科、精神科などの医療機関が併設され、医師・看護師が常駐しているため、通園時は迅速に対応できる医療体制となっている。	今後も、より一層の努力を行います。
③内服薬・外用薬等の扱いは確実に行われている。	a	母子通園施設のため、基本的には保護者が薬の管理を行っているが、チャレンジデーで保護者が不在の場合は、看護師が安全管理マニュアルによる誤薬防止と与薬手順書に基づく与薬管理を行っている。	今後も、より一層の努力を行います。

項 目	評価結果	優れている点・改善を求められる点	特記事項
<b>(8) 余暇・レクリエーション</b>			
①余暇・レクリエーションは、利用者の希望に沿って行われている。	b	保護者会で各種行事やレクリエーションを企画し、子どもと保護者が参加しており、通園時の自由遊びではブレイルームで活発に遊んでいる。 なお、日常的な自由遊びとして、職員側から積極的に企画・提案し、有意義な活動に発展させてほしい。	利用者の希望に添うよう、自由遊びの内容を検討します。
<b>(9) 外出・外泊</b>			
①外出は利用者の希望に応じて行われている。	—	通園施設のため該当なし。	
②外泊は利用者の希望に応じるよう配慮されている。	—	通園施設のため該当なし。	
<b>(10) 所持金・預かり金の管理等</b>			
①預かり金について、適切な管理体制が作られている。	—	児童福祉施設のため該当なし。	
②新聞・雑誌の購読やテレビ等は利用者の意思や希望に沿って利用できる。	a	自由遊びの時間に、読み聞かせの絵本やアニメDVDなどを選択しており、子どもの意向に沿って対応している。	今後も、より一層の努力を行います。
③嗜好品（酒、たばこ等）については、健康上の影響等に留意した上で、利用者の意思や希望が尊重されている。	—	児童福祉施設のため該当なし。	